

市長の窓

しげ のぶ
滋宣の

ぼうちゆう かん あんちゆう めい
“忙中閑あり暗中明あり”

その 15

～ 色無き風 ～

ひんやりとした秋風が吹き込み、襟元の開きを手であわせて歩く。葉を落とした寂しい木々の間を、風は吹き抜けていく。

こんな光景が、間もなく見受けられる季節になります。

日本全土を襲った猛暑と、子どもたちの野球四冠に燃えに燃えた、能代の暑かった夏も過ぎ、黄金色に実った稲穂も刈り取られ、朝夕、寒さを感じる季節になりました。

中国では秋の風を「素風」といいました。「色無き風」とは「素」を「色が無い」として歌語に直した言葉です。

色無き、という言葉には、秋の寂しさや憂いの意味が込められています。色の無い風は落ち葉を舞い散らせて、赤や黄色や橙色をつかの間身につけます。

吹き来れば 身にも染みける 秋風を
色無きものと 思いけるかな
紀 友則

能代市長 齊 藤 滋 宣

9月11日、
野球四冠報告会で

